



3月 定例会

平成21年度一般会計・特別会計・企業会計予算
熊谷市自転車放置防止条例の

一部を改正する条例などを可決

三月市議会定例会は、三月二日から十九日までの十八日間を会期として開かれました。

この議会では、平成二十一年度一般会計・特別会計・企業会計予算のほか、「熊谷市自転車放置防止条例の一部を改正する条例」「熊谷市名誉市民の推挙について」などの市長提出議案三十七件を原案可決し、一件に同意しました。また、議員提出議案一件と、委員会提出議案一件を、それぞれ原案可決しました。

三月定例会の概要

初日（三月二日）の本会議では、市長から「平成二十一年度は、本市が県北初の特別市としてさらなる飛躍をとげる記念すべきスタートの年となる。これは単に人口二十万人という規模の問題ではなく、今後、本市が地方分権の一翼を担うリーダー都市としての自覚と責務を伴うということであり、今まで以上に安定した行財政基盤のもと、快適な環境の中で生き生きと生活できる自立都市の構築が求められるところである。

三位一体の改革の進行とともに財政運営にひっ迫する自治体が数多く出現する事態となり、加えて、昨秋以降の過去に例を見ない世界不況の波は、これに拍車をかけ、対応に苦

慮せざるを得ない事態になっている。こうした中であつて、本市の実質公債費比率等の健全化判断比率については、良好な状態にあると考えている。このような状況下にあつて、新年度予算の編成は、市税の落ち込みを中心とした歳入の減少と、扶助費を中心とした歳出の増加とをいかに調和させ、市民ニーズに添えていくかが大きなポイントであるが、このような状況下であるからこそ行政サービスの低下といった市民生活への影響を避け、市民生活の安定や、市内経済の活性化に資するよう、信頼性の高い行政、市民が誇れるまち、幸せが実感でき、笑顔あふれるまちを目指して編成した。とりわけ子育て環境の整備、市内経済の活性化および中小企業支援、安心安全対策、

環境対策の四つの分野には、特に重点配分を行い、限られた財源を有効に活用するため、実施事業のメリハリづけをする方向で編成した。」旨の施政方針が述べられました。

五日の本会議では、条例案や予算案に対する質疑が行われました。そして各議案は、所管の常任委員会に付託されました。

六日には、総務文教常任委員会および福祉環境常任委員会において、また、九日には、市民産業常任委員会および都市建設常任委員会において、付託された議案についてそれぞれ審査が行われました。

十二日、十三日、十六日の三日間は、十八人の議員による市政に関する一般質問を行ったほか、十六日の本会議冒頭には、金子兜太氏を名誉市民に推挙する議案が上程され、全会一致で同意、その後議場に金子氏をお招きして記事の贈呈式が行われました。

最終日（十九日）の本会議では、各委員長から案件審査の経過および結果が報告され、質疑討論を行い、市長提出議案をすべて原案どおり可決し、三月定例会は閉会しました。

名誉市民に金子兜太氏

本市在住の日本を代表する俳人で、文化功労者の金子兜太氏に、このたび名誉市民の称号が贈られました。

金子氏は、銀行に勤める傍ら、精力的に創作活動を続けられました。退職後は俳句に専念され、前衛俳句の旗手として活躍。これまで多くの代表句を詠まれています。

